

# 「標榜診療科名の見直しについて」の説明

担当理事 江 崎 俊 夫

標榜診療科名に関して、平成20年2月27日「医療法施行令の一部を改正する政令」政令第36号と、同日に「医療法施行規則の一部を改正する省令」厚生労働省令第13号が通知されたが、この2つの通知を基にした解説が日医から平成20年3月4日「診療科名の標榜方法の見直しに関するホームページについて」として配布された。**4月1日から施行。**

今回の見直しは、一つ一つの診療科名を決めていた従来の方式を大幅に変更し、一定の性質を有する事項を包括的に規定する方式に改めることにより、医療機関が標榜できる診療科名を相当数増加させることである。この包括的な方式は内科や外科の前に、法令で定めた語彙を接頭語として付けて、専門的な診療科名とすることである。例えば、接頭語として呼吸器や消化器を選んで、内科や外科に付ければ呼吸器内科や消化器外科となる。

医療広告では「\*\*専門外来」と表示できないが、この改正により専門的な診療科名を標榜することで広告できることになった。

具体的には、1. 内科又は外科。2. “a. 臓器や体の部位。b. 疾病や疾患の名称、c. 対象とする患者の特性、d. 医学的処置の名称”の接頭語と、内科又は外科との組合せ。3. 単独名称で診療科名として標榜できるが、『2』のa～dと組み合わせても良い。などである。

## 1. 内科又は外科

単独名称で、診療科名として標榜でき、一般内科又は一般外科との性格を意味している。

## 2. “a. 臓器や体の部位、b. 疾病や疾患の名称、c. 対象とする患者の特性、d. 医学的処置の名称”の接頭語と、内科又は外科との組合せ

1) 包括的に規定する方式により、a～d＋内科か、a～d＋外科となる。

例：「a. 臓器や体の部位（胸部）」と、「内科」か「外科」とを組み合わせると、「胸部内科」か「胸部外科」となる。「整形外科」は、「d. 医学的処置の名称（整形）」と「外科」の組合せである。

2) 単独項目（例：a）から2つ以上の語彙を組み合わせることはできないが、複数の項目（例：aとb）であれば2つ以上の語彙を組み合わせることができる。

例：×胸部腹部外科（a＋a＋外科）、糖尿病感染症内科（b＋b内科）

○胸部感染症外科（a＋b＋外科）、小児呼吸器アレルギー疾患内科（c＋a＋b＋内科）

## 3) a～dの具体的な項目

### a. 臓器や体の部位：

頭部、頭頸部、頸部、胸部、腹部、脳、脳神経、神経、気管食道、呼吸器、気管、気管支、肺、消化器、食道、胃腸、十二指腸、小腸、大腸、肛門、循環器、心臓、心臓血管、血管、血液、乳腺、腎臓、肝臓、胆のう、膵臓、内分泌、代謝、脂質代謝

### b. 疾病や疾患の名称：

糖尿病、アレルギー疾患、感染症、性感染症、腫瘍、がん

### c. 対象とする患者の特性：

男性、女性、周産期、新生児、小児、児童、思春期、老人、老年、高齢者

### d. 医学的処置の名称：

整形、形成、美容、心療、漢方、薬物療法、化学療法、不妊治療、生殖医療、内視鏡、光学医療、ペインクリニック、疼痛緩和、緩和ケア、透析、人工透析、移植、骨髄移植、臓器移植

## 3. 単独名称で標榜できる診療科名

小児科、精神科、アレルギー科、リウマチ科、産婦人科、産科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション

ン科、放射線科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、臨床検査科、救急科、

3'3の診療科名は、2の3) a～dの語彙を接頭語として組み合わせることができる。

例：不妊治療婦人科、呼吸器アレルギー疾患小児科、

#### 4. 平成20年4月1日以後、標榜できない診療科名

これらの診療科名は最後に内科や外科の名称がないものや2つの診療科名の合併である。平成20年3月以前に標榜していた診療科名は引き続き標榜できるので、看板や広告を付け替える必要はない。しかし、4月以後はこれらの診療科名は標榜できない。

呼吸器科、消化器科、胃腸科、循環器科、神経科、性病科、こう門科、気管食道科、皮膚泌尿器科

#### 5. 従来の単独名称で、標榜できる診療科名

これらの診療科名は、最後に内科や外科があり、2の3) a～dの語彙の接頭語と、内科又は外科との組合せとなっている。ただし、「精神神経科」は「精神科」と3) aの「神経」を組み合わせで「神経精神科」と変わる。

心療内科、神経内科、整形外科、形成外科、美容外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、神経精神科

#### 6. 標榜が認められない不適な組合せ

##### 1) \*\* 内科

\*\* は、整形、形成（例：「整形内科」）。

##### 2) \*\* 外科

\*\* は、心療（例：「心療外科」）。

##### 3) \*\* アレルギー科

\*\* は、アレルギー疾患（例：「アレルギー疾患アレルギー科」）。

##### 4) \*\* 小児科

\*\* は、小児、老人、老年、高齢者（例：「高齢者小児科」）。

##### 5) \*\* 皮膚科

\*\* は、脳、脳神経、気管食道、呼吸器、気管、気管支、肺、消化器、食道、胃腸、十二指腸、小腸、大腸、循環器、心臓、心臓血管、腎臓、肝臓、胆のう、膵臓、（例：「呼吸器皮膚科」）。

##### 6) \*\* 泌尿器科

\*\* は、頭部、頭頸部、頸部、胸部、腹部、脳、脳神経、気管食道、呼吸器、気管、気管支、肺、消化器、食道、胃腸、十二指腸、小腸、大腸、循環器、心臓、心臓血管、乳腺、肝臓、胆のう、膵臓、（例：「頭頸部泌尿器科」）。

##### 7) \*\* 産婦人科

\*\* は、男性、小児、児童（例：「男性産婦人科」）。

##### 8) \*\* 眼科

\*\* は、頸部、胸部、腹部、気管食道、呼吸器、気管、気管支、肺、消化器、食道、胃腸、十二指腸、小腸、大腸、肛門、循環器、心臓、心臓血管、乳腺、腎臓、肝臓、胆のう、膵臓、内分泌、（例：「腹部眼科」）。

##### 9) \*\* 耳鼻いんこう科

\*\* は、胸部、腹部、消化器、胃腸、十二指腸、小腸、大腸、肛門、循環器、心臓、心臓血管、乳腺、腎臓、肝臓、胆のう、膵臓、内分泌、（例：「消化器耳鼻いんこう科」）。

#### 7. 見直し対象外の診療科名

「麻酔科」は対象でないので、「小児麻酔科」と標榜はできない。また、いわゆる「総合科」は、今回の見直しとは全く関係がない。

#### 8. 看板や広告での診療科名の標榜方法(医業)

新しい診療科名を標榜するためには、届出による変更手続が必要である。標榜方法は、「内科」の診療科名だけでなく「内科、外科、胸部外科、大腸内科、アレルギー科、リウマチ科」のように、複数の診療科名や、1と2と3の方法の診療科名を並べて表示できる。